

中国人民銀行、預金準備率引き下げ

ポイント① 今年3回目の預金準備率引き下げ

10月7日、中国の中央銀行である中国人民銀行は、民間銀行預金の一定割合を人民銀行に強制的に預金させる率を定める預金準備率を15.5%から14.5%に引き下げることを発表しました。預金準備率が引き下げられると、その分だけ民間銀行が貸出しを増やすことが可能になるため、金融市場の環境は緩和化されたことになります。預金準備率の引き下げは7月に続くもので、今年3回目です。

中国では、銀行貸出し以外の金融機関や市場を介した信用供与、いわゆるシャドーバンキングが過剰化したため、政府や中央銀行はその削減を目指してきました。しかし、その過程で景気は減速しました。さらに米国との貿易摩擦が高まり、輸出の鈍化が懸念されています。預金準備率引き下げは、景気下支えを狙ったものと言えます。

ポイント② 株価下落も金融緩和の要因

また、中国の株価の下落も金融緩和を促す要因となっているようです。中国の株価は1月下旬をピークに大きく下落しており、景況感を悪化させる要因になっています。

さらに、国慶節で中国市場が1週間休場になっていた間、米国債券利回りの上昇などによって世界の金融市場は不安定な動きを示していました。休場明けの中国市場への影響を緩和することも、7日の預金準備率引き下げの狙いとしてあった模様です。しかし、それでも8日には中国株は大きく下落しました。

ポイント③ 人民元の下落到注意

預金準備率引き下げなどの金融緩和は、基本的には中国の景気や株式市場にとってプラス要因と言えるでしょう。ただし、人民元に下落圧力がかかりやすいことには注意が必要です。人民元安は中国景気にはプラスに働くと見られますが、人民元安観測が中国からの資本流出圧力を高め、中国株の下落を助長する面もあります。

一方、人民元安は中国との貿易取引が多い国にとってはマイナスとなります。さらに、輸出競争力を高めるために中国当局が意図的に人民元安を誘導しているという米国の批判を招きやすく、米中貿易摩擦を高めることも考えられます。

重要 イベント

10月12日	中国貿易収支(9月)
10月12日頃	中国社会資金調達金額(9月)
10月19日	中国鉱工業生産指数、小売売上高、固定資産投資(9月)、7-9月期GDP

図1：中国の社会資金調達金額と鉱工業生産指数

期間：2007年1月～2018年8月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米国の国・地域別貿易収支

(100万米ドル)

	2017年1-8月	2018年1-8月
全体	-520,075	-570,463
中国	-239,670	-261,125
EU	-95,721	-110,860
メキシコ	-47,107	-52,272
日本	-46,285	-46,097
その他	-91,292	-100,109

(注)センサス統計ベース、季節調整前値。

(出所)米商務省資料より野村アセットマネジメント作成

図3：人民元の対米ドル為替レートと中国の株価指数

期間：2017年1月2日～2018年10月8日、日次



(出所)Bloombergより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。